また　モリへ

olea

一生分のサクラを見ようと思った

告げ知らされたのは　この世の猶予が二年
ほうー
だが　その理論
そんな不確かな未来を鵜呑みにするほど柔じゃない

命の限りは 神様だけが及ぶところ
天国の門を開けて下さるその時までは
誰にも支配はさせない

今この瞬間のサクラ
またたく間に過去に変わるこの場所で
散りゆくひとひらの花びらさえも見逃したくない
何度でも何十回でも
そう　百年生きた人よりも
共に生きた証を我がものとするために

揺れる
奏でる ささやく
果て知れぬ無限の彼方の空から
飛び込んでくる若葉色の活気は異次元そのもの
私は不思議の国のアリス

見えない存在が
体中の細胞に語りかけるのは
まさしく「生」

あなたの　いぶきを受けて
わたしは　新しくなる

ぬぐい切れない涙がこぼれ落ち
典礼聖歌で受け取った

味わおう
苦痛さえも
生きている奇跡
五感すべてに託された感情

植物と私の体が繋がっていく
血液から注がれていく針葉樹の力が
ひとつ　ひとつと
もとの私にへと担う

奪い取られる体の自由があろうと
三週間ごとの道しるべを目指して本気の「生きる」
どこまで続くのか

ただ前へ
振り向いてもたたずんでも戻れない一本道は　私が決めた道

優しい無言の森
目覚めるたびに求め続けた

お堀に沿ってサクラ咲く片隅のアーモンドの木
その場所から　七十段の階段を駆け上ればノースロップの森
そして
梅林へと続く道の真正面には台風で枝を失ったエノキの大木

木立の香りを夢中で嗅いだ
木漏れ日の紅葉が放つのは　繊細なスペクトル
幾重にも贅沢な落ち葉は　万華鏡
この世でしか生まれない色に初めて出会い
体に触れる寒風さえも心地よく足が弾んだ

梅の花が咲く頃
エノキの大木へと向かった
生きるために胸と腕を犠牲にした今
この傷跡は
私の嘆きと誇り
大きな幹に両腕を伸ばし
思いっきり泣きすがりたかった

折れた枝を切り落とされ
バランスを失ったかのような姿は　あわれでも惨めでもなく
雄々しく立ち続けている様は　有無を言わせないエノキの主張

見せつけてくれたのは　圧倒的な不変と再生

幹を叩き続け　私のすべてで応えた

ふたたびのサクラは今年の花を咲かせ
葉桜の頃にはアーモンドの実が生り
一緒に並んだこれらが
バラ科サクラ属だったとその意味に微笑んだ
ノースロップの森は　今年も気前よく香りをふりまき
幾度も往復して全身にまとった

エノキの大木は　さらに新しい枝を付け
若葉もひたすら萌えている

私の死なないための戦いは二巡目に入った